

ちやうひとよろひをさしちがへて、こなたのへだてにはして、○下

〔類聚雜要抄四〕康平三年八月十一日丁卯、後冷泉院移御、○中

三尺几帳一本茵前料寸法、凡諸事母屋定

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀

濱椿二尺几帳二基

〔雅亮裝束抄一〕もやひさしのてうどたつる事

おなじきまのもやに御帳あり、○中 そのまくらの左右に、八もじに、玄たんちのてのこき丁をたつ、まくらき丁といふなり、かたびらふたへおりものなり、それにそへてぢんのまくらふたつをくべし。

〔類聚雜要抄四〕康平三年八月十一日丁卯、後冷泉院移御、○中

枕几帳手長一尺五寸五分、口土居長七寸、弘四寸五分、上高二尺内、土居厚二帷長二尺二寸、二乃

一本、説在云々、用二本時ハ、枕ニ八文字立之、用一本時ハ、枕ニ寄西小

今案、大治年、伊與守基隆、佐渡、御

張工料、單功卅疋、又廿五疋、

〔雅亮裝束抄一〕もやひさしのてうどたつる事

おなじきまのもやに御帳あり、○中 さてのちつねのき丁を三本とりよせて、この御帳のみなみ

ひんがしにしのくちに、はまゆかのうへにたて、○中 この木丁をよせき丁とはいふなり、

〔普廣院殿大將御拜賀雜事一〕一端几帳事、同臺可被之、由攝政被申、

〔西宮記正月上〕供御藥事

天皇御東廂、着御生氣御服舊例采、女已上着御生氣衣服、

陪膳女藏人等候御厨子所、供御臺二基、○中 内膳奉膳付采女采

几帳用法